

令和 5 年 8 月 28 日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿

国立がん研究センター中央病院
医療安全外部監査委員会
委員長 山 本 修 一

令和 5 年度第 1 回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時 : 令和 5 年 7 月 10 日(水) 13 時 00 分～15 時 10 分 特別会議室

2. 監査委員

独立行政法人地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部	相馬 孝博	副院長／部長
順天堂大学医学部 心臓血管外科学・病院管理学	川崎 志保理	客員准教授
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士(WEB 参加)
一般社団法人 CSR プロジェクト	桜井 なおみ	代表理事

3. 令和 4 年度第 2 回医療安全外部監査委員会監査結果に対する当院の対応

(令和 4 年 3 月 31 日医政発 0331 第 35 号に基づく公表)

- 1) 患者誤認防止策強化のため、特定の部門や場面だけでなく、病院全体で氏名に加えて生年月日などで確認するという二要素確認の実施を検討していただきたい。

<対応>

認証する二要素として、自身に名乗ってもらう患者氏名とシステム（外来では呼出し機、入院ではリストバンド）を組み合わせることが効果的であると考えている。当院で発生している患者誤認は文書関連が多く、その要因は患者氏名の確認ができていないことであるため、まずは職員の確認行為が定着できるように取り組んでいく。(委員会了承)

- 2) 外来患者の転倒防止策立案に活かすため、発生件数のモニタリングの他に、付き添いの有無など、事例場面についてもモニタリングすることをご検討いただきたい。

<対応>

外来患者の転倒発生場面については、付添い者が離れた間に転倒する事例が散見された。他にも呼出し器が鳴った直後や更衣(靴の着脱含む)の場面で発生している事例があった。今後も事例場面についてモニタリングを継続し、対策立案につなげていく。(委員会了承)

- 3) 改訂中の高難度新規医療技術等導入フローチャートに、緊急対応についても明記していただきたい。

<対応>

緊急対応のルートがあることを示すフローチャートを作成した。(委員会了承)

- 4) 年間目標の取り組みについては、検証・効果判定を兼ねた実施時期を検討した上で、年間計画を立案していただきたい。

＜対応＞

令和 5 年度は年間計画を時期が分散するように立案した。(委員会了承)

- 5) 適応外使用については、高難度新規医療技術等と医薬品適応外使用の住み分けを整理し、フローチャートに明記しておく等、検討していただきたい。

＜対応＞

医薬品適応外使用のフローチャートを作成した。(委員会了承)

4. 監査結果

- 1) 患者と共に医療安全体制を築いていくためには、患者に医療安全の取り組みを理解していただくことが重要になる。まずは、患者と大きな関わりのある患者誤認防止の対策について理解いただくために、毎度氏名と生月日を聞いている理由を院内放送等で紹介して、協力をお願いするといった取り組みを検討していただきたい。
- 2) 高難度新規医療技術が適切に実施されているか評価するタイミングについて、実施症例を評価期間内に複数のタイミングでカルテレビューするような確認体制を整備していただきたい。
- 3) 外科系・内科系症例検討会の検証結果や取り組みを教訓として記録に残すことは重要である。組織として症例に対してどのような検証をしたのか、意思決定の過程がわかるよう病院の記録として残していただきたい。

以 上